

馬産地ライター村本浩平の 2024 スタリオンシリーズ競走種牡馬名鑑



Vol. 1

4.17 [水] ▶ 6.6 [木] 開催分

4.18
[木]

カラヴァッジオ賞

【ネクストスター北日本(H1)】

カラヴァッジオは2014年産まれの米国産馬。父Scat Daddy、母Mekko Hokte(母の父Holy Bull)。現役時はGIフィニクスS(芝6ハロン)、GIコモンウェルスC(芝6ハロン)を含め、10戦7勝の成績を残している。現役引退後はアイルランドで繋養されると、2021年には欧州のファーストクロープリードィングサイアーに輝く。世界各国で重賞馬を送り出しているだけでなく、日本でもアグリがGⅢ阪急杯(芝1400M)を優勝。父譲りのスプリント適性の高さを証明した。2023年シーズンから新ひだか町・日本軽種馬協会静内種馬場で繋養され、その年には128頭の繁殖牝馬に配合を行っている。

4.25
[木]

ベンバトル賞

【エトワール賞(H3)】

ベンバトルは2014年産まれの英国産馬。父Dubawi、母Nahrain(母の父Selkirk)。現役時はGIドバイターフ(芝1800M)、GIコーフィールドS(芝2000M)、GIダルマイヤー大賞(芝2000M)を含め、25戦11勝の成績を残している。GIドバイターフでは2着のヴィブロスだけでなく、ディアドラ、リアルスティールにも3馬身以上の差を付けている。世界的な名種牡馬Dubawiの後継種牡馬であり、父譲りの優れた競走能力を長きに渡るグレードレースでの活躍で証明し続けた。現役引退後の2022年シーズンから、新冠町・ビッグレッドファームで繋養され、2023年には115頭の繁殖牝馬に配合を行っている。

5.2
[木]

フィエールマン賞

【北斗盃(H3)】

初年度
産駒
デビュー

フィエールマンは2015年産まれ、安平町・ノーザンファームの生産馬。父ディーピンパクト、母リュヌドール(母の父Green Tune)。現役時はGI天皇賞・春(2回)、GI菊花賞を含め、12戦5勝の成績を残している。デビューから僅か4戦のキャリアでGI菊花賞を優勝。GI天皇賞・春もキャリア6戦目での勝利となった。GI凱旋門賞以外の11戦で掲示板を外したことがなく、GI天皇賞・秋では勝利したアーモンドアイから0秒1差の2着となっている。現役引退後の2021年シーズンから日高町・ブリーダーズ・スタリオン・ステーションで繋養され、2023年には86頭の繁殖牝馬に配合を行っている。

5.9
[木]

ゴールドシップ賞

【コスモバルク記念(H2)】

ゴールドシップは2009年産まれ、日高町・出口牧場の生産馬。父ステイゴールド、母ポイントフラッグ(母の父メジロマックイーン)。現役時はGI皐月賞、GI菊花賞、GI有馬記念、GI宝塚記念(2回)、GI天皇賞・春を含め、28戦13勝の成績を残している。現役引退後の2016年シーズンから新冠町・ビッグレッドファームで繋養される。種牡馬入り2年目の産駒となるユーバーレーベンがGIオークスを優勝し、父に初めてのクラシックタイトルを授けた。同じく2年目の産駒にあたるマイネルグロンは2023年のJ・GI中山大障害を制している。2023年には107頭の繁殖牝馬に配合を行っている。

5.16
[木]

アダイヤー賞

【フロイラインスプリント(H3)】

新種牡馬

アダイヤーは2018年産まれ、愛国産馬。父Frankel、母Anna Salai(母の父Dubawi)。現役時はGI英ダービー、GIキングジョージ六世&クイーンエリザベスSを含め、13戦5勝の成績を残している。父Frankelは世界各国でGI馬を送り出している稀代の名種牡馬。GI英ダービーとGIキングジョージ六世&クイーンエリザベスSを同年に勝利したのは、種牡馬としても大成功を収めたGalileo以来の快挙となった。2024年シーズンから日高町・ダーレー・ジャパン スタリオンコンプレックスで繋養されており、種牡馬展示会にあたる「ダーレーオープンハウス」でも、多くの生産者の視線を集めた。

5.23
[木]

マジェスティックウォリアー賞

【ヒダカソウカップ(H3)】

マジェスティックウォリアーは2005年産まれの米国産馬。父A.P. Indy、母Dream Supreme(母の父Seeking the Gold)。現役時はGIホープフルSを含め、7戦2勝の成績を残している。現役引退後の2009年から米国で種牡馬入りすると、アメリカではGICCAオークス優勝などGI4勝をあげたPrincess of Sylmarを送り出す。日本でも輸入馬のベストウォーリアがJpnIマイルチャンピオンシップ南部杯を優勝している。2016年シーズンから浦河町・イーストスタッドで繋養されており、サンライズホープ、プロミストウォリアがダート重賞を制している。2023年には129頭の繁殖牝馬に配合を行っている。

6.6
[木]

タワーオブロンドン賞

【グランシャリオ門別スプリント(H3)】

初年度
産駒
デビュー

タワーオブロンドンは2015年産まれ、日高町・ダーレー・ジャパン・ファーム有限会社の生産馬。現役時はGIスプリンターズSなど18戦7勝の成績を残している。GII京王杯スプリングC、GIIセントウルSでレースレコードを樹立するなど、芝のスプリント重賞でスピード能力の高さを証明していった。祖母は名牝Doff the Derbyであり、このファミリーからは数多くの種牡馬も送り出されている。2021年シーズンから日高町・ダーレー・ジャパン スタリオンコンプレックスで繋養されており、初年度産駒は本年度からデビューを迎える。2023年には133頭の繁殖牝馬に配合を行っている。

今シーズンは特別競走2レースも
「スタリオンシリーズ競走」として開催!

- 門別15回 ・ミスチヴィアスアレックス賞
- 門別15回 ・アニマルキングダム賞

「スタリオンシリーズ競走」は、一般社団法人JBC協会(ジャパンブリーダーズカップ協会)が産地の支援を得て、優勝馬の馬主や生産牧場に種牡馬の翌年種付権利を副賞として贈呈する競走です。

※生産牧場が海外の場合は付与対象外となります。

